

まえがき

この規格は、工業標準化法第14条によって準用する第12条第1項の規定に基づき、社団法人日本工作機器工業会（JMAA）／財団法人日本規格協会（JSA）から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS B 1193 : 1984** は改正され、この規格に置き換えられる。

JIS B 1193 には、次に示す附属書がある。

- 附属書 1（規定） ボールスプライン外筒の形状及び寸法
- 附属書 2（参考） ボールスプラインの軸端の形状及び寸法

ボールスプライン

Ball splines

1. 適用範囲 この規格は、一般の機械（自動車、車両を含む。）において回転動力の伝達又は回り止めの機能を果たしながら軸方向移動を行う、機械部品であるボールが循環運動する形式のボールスプラインについて規定する。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

- JIS B 1501** 玉軸受用鋼球
- JIS B 1517** 転がり軸受の包装
- JIS B 7725** ビッカース硬さ試験—試験機の検証
- JIS G 4051** 機械構造用炭素鋼鋼材
- JIS Z 2244** ビッカース硬さ試験—試験方法
- JIS Z 8703** 試験場所の標準状態

3. 定義 この規格で用いる主な用語の定義は、次による（図1参照）。

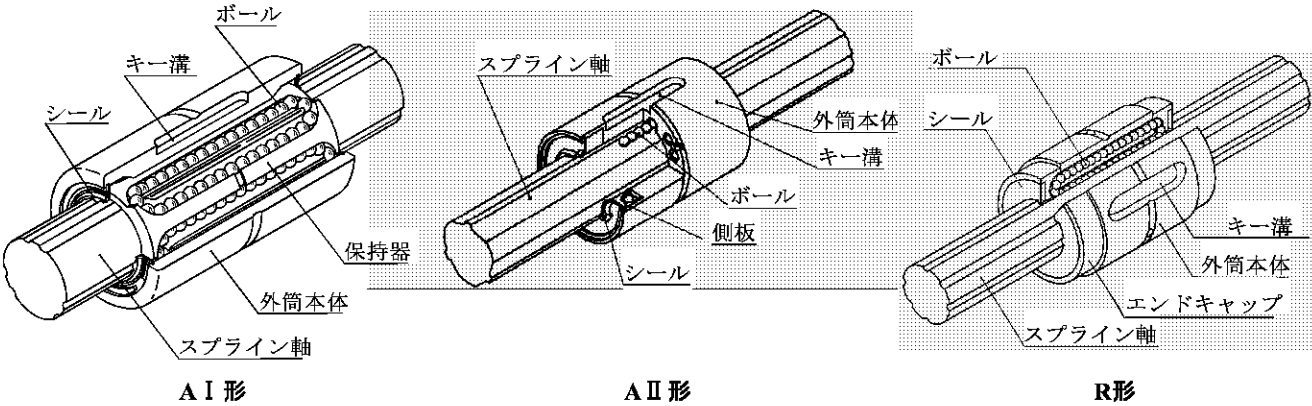
- a) **ボールスプライン** スプライン軸及び外筒が、ボールを介して作動する機械部品。
- b) **スプライン軸** 外筒とボールを介してかん合する、軸方向にスプライン溝をもつ軸。
- c) **外筒** 外筒本体、ボール、保持器、側板、エンドキャップなどからなる組立部品の総称。
- d) **スプライン溝** ボールが転動できるよう、スプライン軸外周面及び外筒本体内面に軸方向に直線状に整数条設けられた凹状部分。

なお、スプライン溝の表面をスプライン溝面という。

- e) **溝ねじれ** 外筒の有効移動量又はスプライン軸のスプライン部有効長さに対する外筒回転の値。
- f) **呼び径** ボールスプラインのサイズを表す公差をもたないスプライン軸のスプライン部外径。公差をもたないピッチ円径で表す場合もある。

備考 ピッチ円径とは、スプライン軸及び外筒本体が、ボールと理論的な接触点で接触している場合のボール中心を包含する円筒の直径。

- g) **スプライン部有効長さ** ボールスプラインの軸方向の、精度を保証された移動範囲を規定するスプライン軸のスプライン部長さ。



備考 図は、構造の一例である。

図1 ボールスプラインの各部名称

4. 種類及び等級（図1参照） ボールスプラインの種類は、表1による。また、各種類のボールスプラインの等級は、その品質及び精度によってC1，C3，C5の3等級とする。

なお，C1をP，C3をHで表示し，C5を無記号としてもよい。

表1 ボールスプラインの種類及び記号

名 称	種 類	外筒のフランジの有無	シールの有無	
ボールスプライン	AI形 AII形 R 形	なし	なし	
			あり	片側（U）
				両側（UU）
		あり（F）	なし	
			あり	片側（U）
				両側（UU）

備考 表中の括弧内文字は表示記号であるが，その使用方法は12.による。

5. 品質

5.1 外観 ボールスプラインの表面には，割れ及び機能上有害なきず，かえり，さびなどの欠点があってはならない。

5.2 溝ねじれ スプライン軸の溝ねじれ公差は，9.3の方法によって測定したとき，スプライン軸のスプライン部有効長さの間に任意にとった100mmについて表2の規定に適合しなければならない。

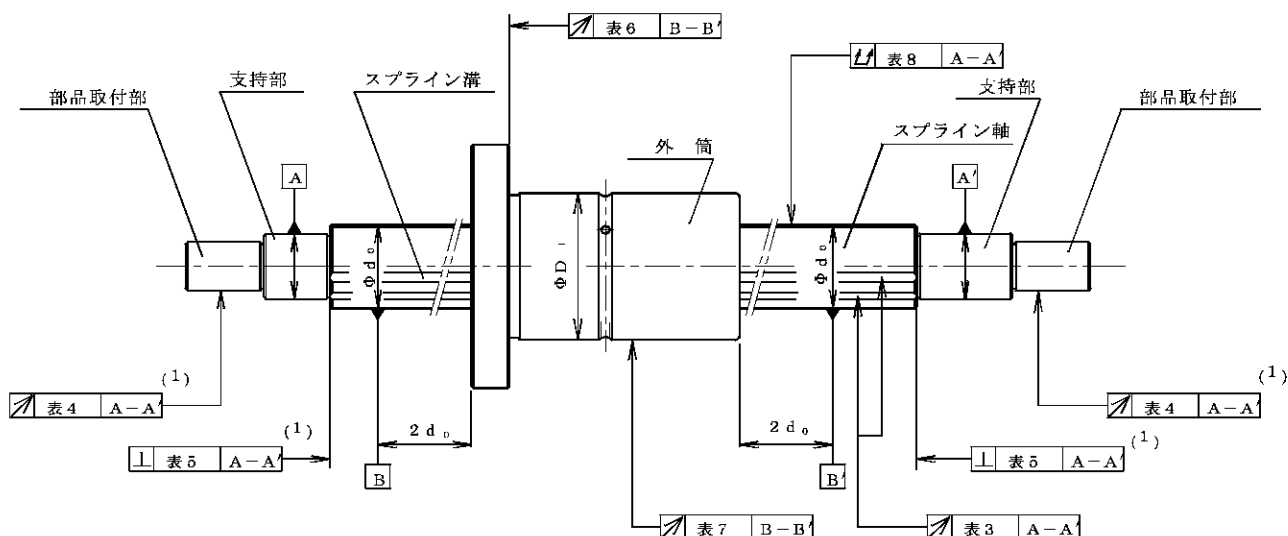
備考 スプライン軸と外筒との相対移動量が100mm以上とれない場合は，表2の値を移動量に比例して換算した値を適用する。

表2 スプライン軸のスプライン部有効長さに対する溝ねじれ

単位 μm			
等級	C1	C3	C5
溝ねじれ公差（最大）	6	13	33

5.3 スプライン軸の精度 (図2参照) スプライン軸の支持部軸線に対するスプライン溝面及び部品取付部外径の半径方向の円周振れ並びに支持部端面の軸方向の円周振れは、9.4.1、9.4.2及び9.4.3の方法によって測定したとき、表3、表4及び表5に適合しなければならない。

5.4 外筒の取付部の精度 (図2参照) スプライン軸のスプライン部軸線に対する外筒基準端面又はフランジ取付面の軸方向の円周振れ、及び外筒外周面の半径方向の円周振れは、9.5.1及び9.5.2によって測定したとき、表6及び表7の規定に適合しなければならない。



注 (1) 支持部及び部品取付部のないものには、適用しない。

備考1. 支持部は、軸受などを取り付け、スプライン軸を支持する部分をいう。

2. 部品取付部は、歯車など他の機械要素を取り付ける部分をいう。

3. この図は、一例としてA I形の例を示す。

なお、図3～図9も一例として、主としてA I形の図を示す。

図2 ボールスプラインの精度

5.5 スプライン軸の支持部軸線に対するスプライン部外径の半径方向の全振れ (図2参照) スプライン軸の支持部軸線に対するスプライン部外径の半径方向の全振れ公差は、9.6によって測定したとき、表8の規定に適合しなければならない。

5.6 硬さ スプライン溝面の硬さは、9.7の方法によって測定したとき、HV595 (HRC55) 以上とする。

表3 スプライン軸の支持部軸線に対するスプライン溝面の半径方向の円周振れ (2)

単位 μm

呼び径 d_0 (mm)		等級		
		C1	C3	C5
を超え	以下	振れ公差 (最大)		
—	8	8	14	33
8	12	10	17	41
12	20	12	19	46
20	32	13	22	53
32	50	15	25	62
50	80	17	29	73
80	125	20	34	86

注 (2) この項目には、スプライン軸の軸線の振れの影響が含まれるので、その補正が必要となる。その補正方法としては、スプライン軸の全長と、支点と測定点間の距離との比によって、表8のスプライン軸の支持部軸線の全振れ公差から補正值を求め、表3の公差に加えて適用する。

表4 スプライン軸の支持部軸線に対する部品取付部外径の半径方向の円周振れ

単位 μm

呼び径 d_0 (mm)		等級		
		C1	C3	C5
を超え	以下	振れ公差 (最大)		
—	8	8	14	33
8	12	10	17	41
12	20	12	19	46
20	32	13	22	53
32	50	15	25	62
50	80	17	29	73
80	125	20	34	86

表5 スプライン軸の支持部軸線に対する支持部端面の軸方向の円周振れ

単位 μm

呼び径 d_0 (mm)		等級		
		C1	C3	C5
を超え	以下	振れ公差 (最大)		
—	8	6	9	22
8	12	6	9	22
12	20	8	11	27
20	32	9	13	33
32	50	11	16	39
50	80	13	19	46
80	125	15	22	54

表6 スプライン軸のスプライン部軸線に対する
外筒基準端面又はフランジ取付面の軸方向の円周振れ

単位 μm

呼び外筒外径 D_1 (mm)		等級		
		C1	C3	C5
を超え	以下	振れ公差 (最大)		
—	18	8	11	27
18	30	9	13	33
30	50	11	16	39
50	80	13	19	46
80	120	15	22	54
120	180	18	25	63
180	250	20	29	72

表7 スプライン軸のスプライン部軸線に対する外筒外周面の半径方向の円周振れ

単位 μm

呼び外筒外径 D_1 (mm)		等級		
		C1	C3	C5
を超え	以下	振れ公差 (最大)		
—	18	5	11	27
18	30	6	13	33
30	50	7	16	39
50	80	8	19	46
80	120	10	22	54
120	180	12	25	63
180	250	14	29	72

表8 スプライン軸の支持部軸線に対するスプライン部外径の半径方向の全振れ

単位 μm

等 級		C1							C3							C5						
呼び径 d_0 (mm)	を 超 え	—	8	12	20	32	50	80	—	8	12	20	32	50	80	—	8	12	20	32	50	80
	以 下	8	12	20	32	50	80	125	8	12	20	32	50	80	125	8	12	20	32	50	80	125
スプライン軸の呼び全長 (mm)		振れ公差 (最大)							振れ公差 (最大)							振れ公差 (最大)						
を 超 え	以 下																					
—	200	26	20	18	18	16	16	16	46	36	34	32	32	30	30	72	59	56	53	53	51	51
200	315	57	32	25	21	19	17	17	89	54	45	39	36	34	32	133	83	71	58	58	55	53
315	400	82	41	31	25	21	19	17	126	68	53	44	39	36	34	185	103	83	70	63	58	55
400	500	108	51	38	29	24	21	19	163	82	62	50	43	38	35	236	123	95	78	68	61	57
500	630		65	46	34	27	23	20		102	75	57	47	41	37		151	112	88	74	65	60
630	800		85	58	42	32	26	22		130	92	68	54	45	40		190	137	103	84	71	64
800	1 000			75	52	38	30	24			115	83	63	51	43			170	124	97	79	69
1 000	1 250				65	47	35	28				102	76	59	48				151	114	90	76
1 250	1 600				85	59	43	33				130	93	70	55				190	139	106	86
1 600	2 000					77	54	40					118	86	65					173	128	99
2 000	2 500						68	49						106	78						156	117
2 500	3 150						88	61						134	96						190	143

6. 形状・寸法 ボールスプラインのスプライン軸の呼び径及び各種外筒の形状・寸法は、**附属書1（規定）**による。
また、ボールスプラインの軸端の形状及び寸法を**附属書2（参考）**に参考として示す。

7. スプライン軸及び外筒の材料 スプライン軸と外筒の材料は、**JIS G 4051** に規定する鋼材又は品質がこれと同等以上の鋼材とする。

8. ボール ボールスプラインのボールは、**JIS B 1501** による。

9. 試験方法

9.1 試験場所の状態 ボールスプラインの試験場所の状態は、**JIS Z 8703**に規定する標準温度状態を20℃とし、標準状態の温度の許容差は、15級とする。

9.2 スプライン軸の試験条件 スプライン軸の精度の測定時には、測定誤差が極力含まれないよう2点以上で正確に支持しなければならない。

9.3 スプライン軸の溝ねじれ 図3に示すように、スプライン軸を固定して支え、外筒には適切な一方のねじりモーメントを与えておき、測定子を外筒に取り付けた沈みキーの側面又は外筒にかぶせて固定したジグの切欠部側面に、スプライン軸と垂直方向に当て、外筒と測定子をスプライン軸の有効スプライン部上の任意の位置で、軸方向に同時に100mm移動したときの振れを測定し、この値をスプライン軸の溝ねじれとする。ただし、測定子はできるだけ外筒外周面の近傍に当てる。

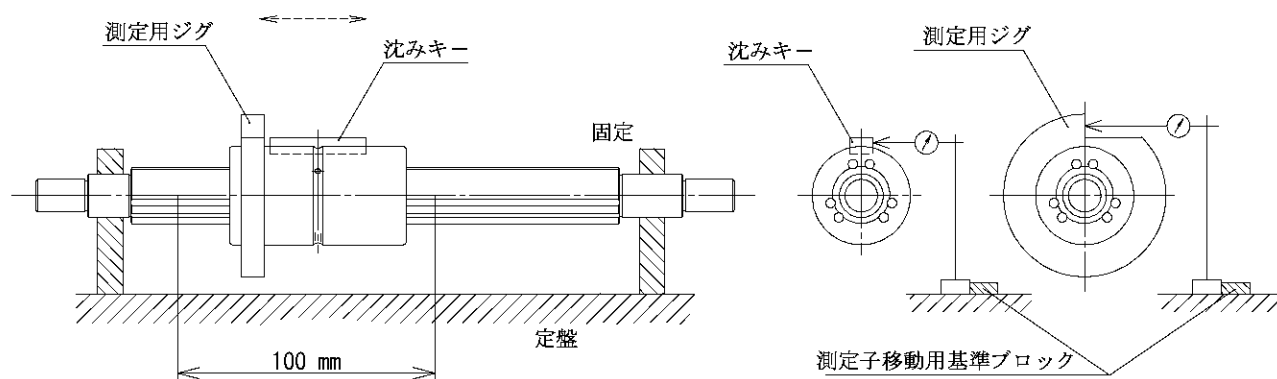


図3 スプライン軸の溝ねじれ

9.4 スプライン軸の各部の精度

9.4.1 スプライン軸の支持部軸線に対するスプライン溝面の半径方向の円周振れ 図4に示すように、スプライン軸をその支持部で支え、スプライン部両端の近傍においてスプライン溝に使用するボールと同径のピンを当てて固定し、ピンの外周面に測定子を当て、又はスプライン溝に使用するボールと同径のピン又はボールを当てる専用の円筒形ジグを用いてその外周面に測定子を当て、軸を1回転したときの測定値の最大差を求め、この値をスプライン軸の支持部軸線に対するスプライン溝面の半径方向の円周振れとする。

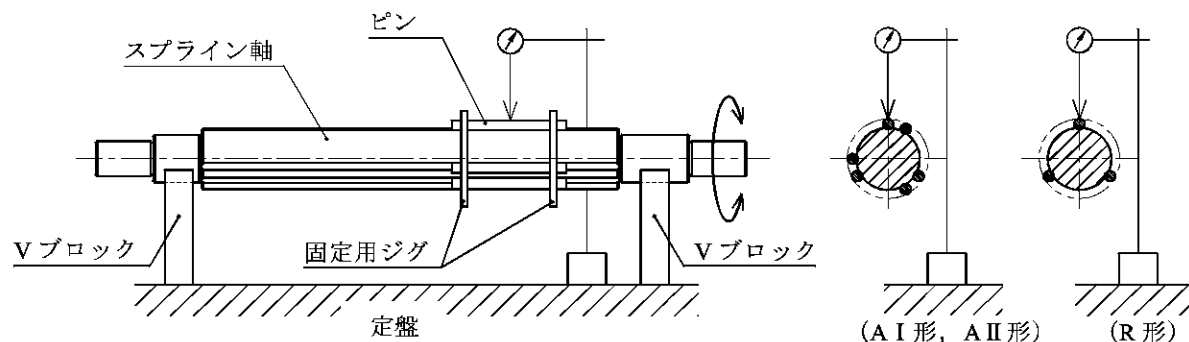


図4 スプライン軸の支持部軸線に対するスプライン溝面の半径方向の円周振れ

9.4.2 スプライン軸の支持部軸線に対する部品取付部外径の半径方向の円周振れ 図5に示すようにスプライン軸をその支持部においてVブロックなどを用いて水平に支え、両端の部品取付部の外周面に測定子を当て、スプライン軸を1回転したときの振れを測定し、この値をスプライン軸の支持部軸線に対する部品取付部外径の半径方向の円周振れとする。

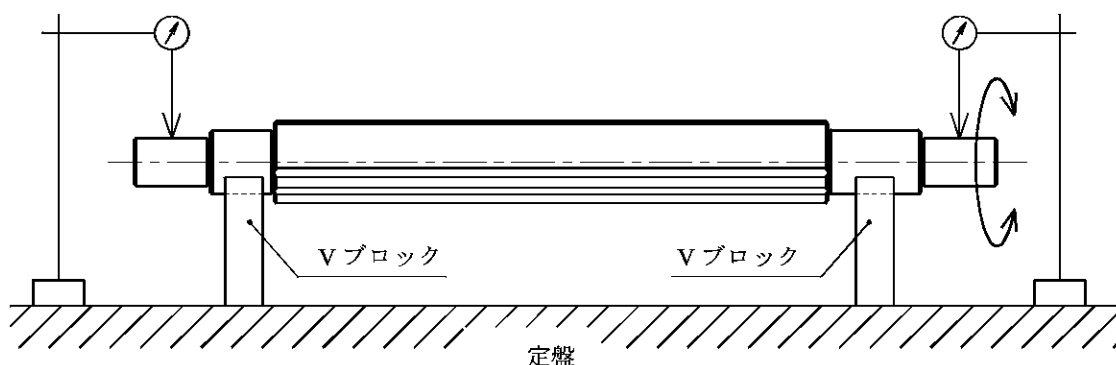


図5 スプライン軸の支持部軸線に対する部品取付部外径の半径方向の円周振れ

9.4.3 スプライン軸の支持部軸線に対する支持部端面の軸方向の円周振れ 図6に示すように、スプライン軸の片端をボールを介して固定面に突き当てながら支持部をVブロックなどを用いて水平に支え、その支持部端面に測定子を当て、軸を1回転したときの振れを測定し、この値をスプライン軸の支持部軸線に対する支持部端面の軸方向の円周振れとする。

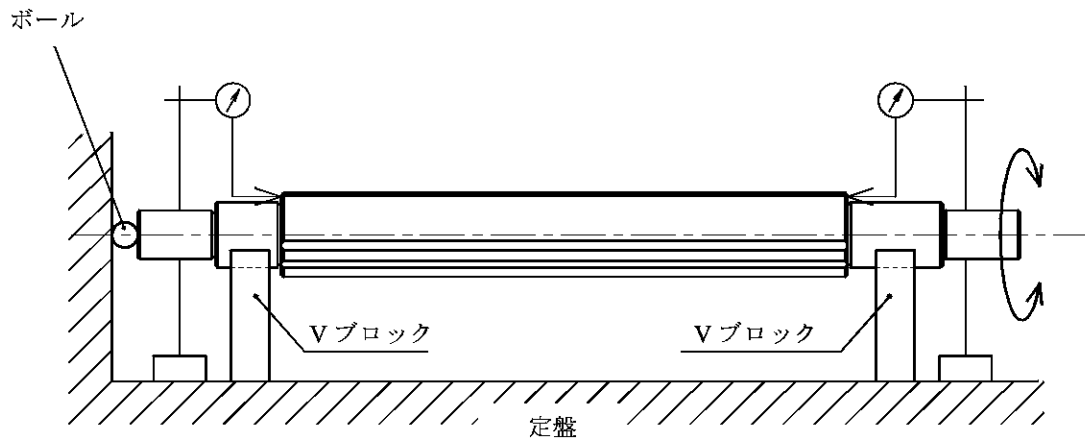


図6 スプライン軸の支持部軸線に対する支持部端面の軸方向の円周振れ

9.5 外筒の取付部精度

9.5.1 スプライン軸のスプライン部軸線に対する外筒基準端面又はフランジ取付面の軸方向の円周振れ 図7に示すように、外筒を固定用ジグを用いてスプライン部上に固定し、スプライン軸を外筒両端面から軸呼び径の2倍 ($2d_0$) の位置のスプライン部外径を直接に又はスプライン溝を基準にする適当な測定用ジグを介してVブロックなどで支え、その先端をボールを介して固定面に突き当て、外筒の基準側端面に直接に又は適切なジグを介して外径近傍に測定子を当てて、又はフランジ取付面の外径近傍に測定子を当てて、スプライン軸と外筒とを同時に回転させたときの振れを測定し、この値をスプライン軸のスプライン部軸線に対する外筒基準端面又はフランジ取付面の軸方向の円周振れとする。また、受渡当事者間の協定によって、スプライン軸を両センタ支持で測定してもよい。

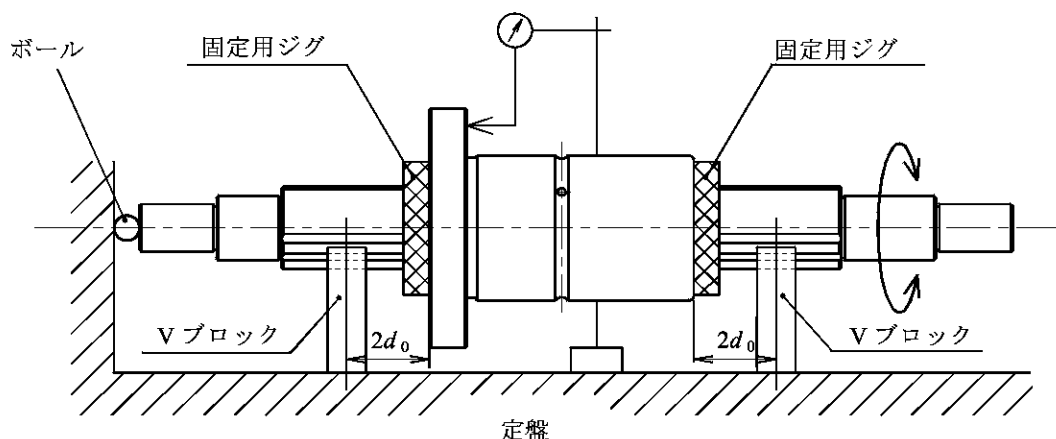


図7 スプライン軸のスプライン部軸線に対する外筒基準端面又はフランジ取付面の軸方向の円周振れ

9.5.2 スプライン軸のスプライン部軸線に対する外筒外周面の半径方向の円周振れ 図8に示すように、外筒を固定用ジグを用いてスプライン部上に固定し、スプライン軸を外筒両端面から軸呼び径の2倍 ($2d_0$) の位置のスプライン部外径を直接に又はスプライン溝を基準にする適切な測定用ジグを介してVブロックなどで支え、外筒外周面数箇所に測定子を当て、スプライン軸と外筒とを同時に回転させたときの振れの最大値を測定し、これをスプライン軸のスプライン部軸線に対する外筒外周面の半径方向の円周振れとする。

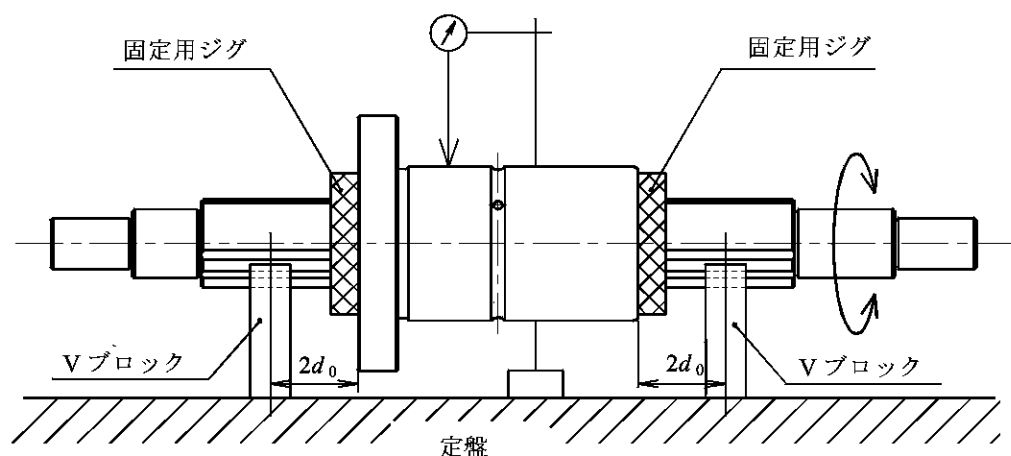


図8 スプライン軸のスプライン部軸線に対する外筒外周面の半径方向の円周振れ

9.6 スプライン軸の支持部軸線に対するスプライン部外径の半径方向の全振れ 図9に示すように、スプライン軸をその支持部においてVブロックなどを用いて水平に支え、測定子をスプライン部の外周面又は外筒外周面のほぼ中央に当て、軸を各1回転したときの振れを軸方向数箇所の位置について測定し、その最大値によって求める。また、受渡当事者間の協定によって、スプライン軸を両センタ支持で測定してもよい。

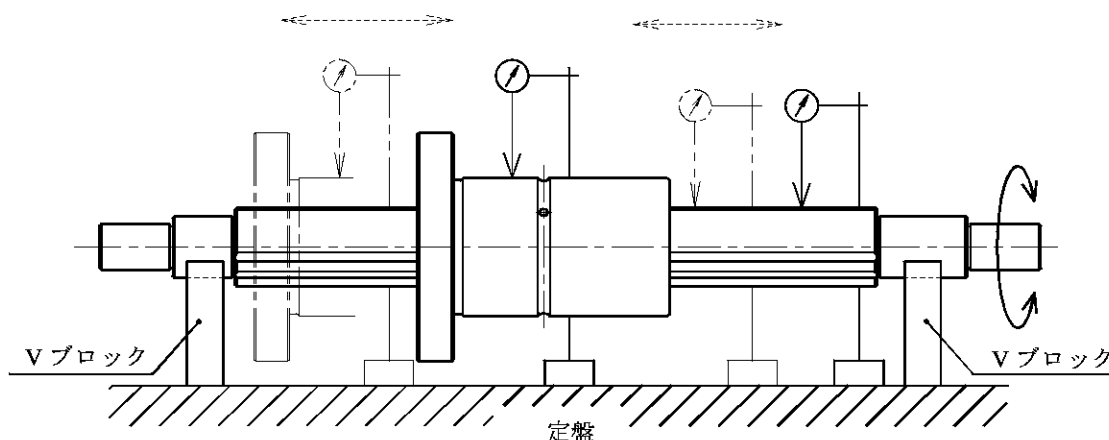


図9 スプライン軸の支持部軸線に対するスプライン部外径の半径方向の全振れ

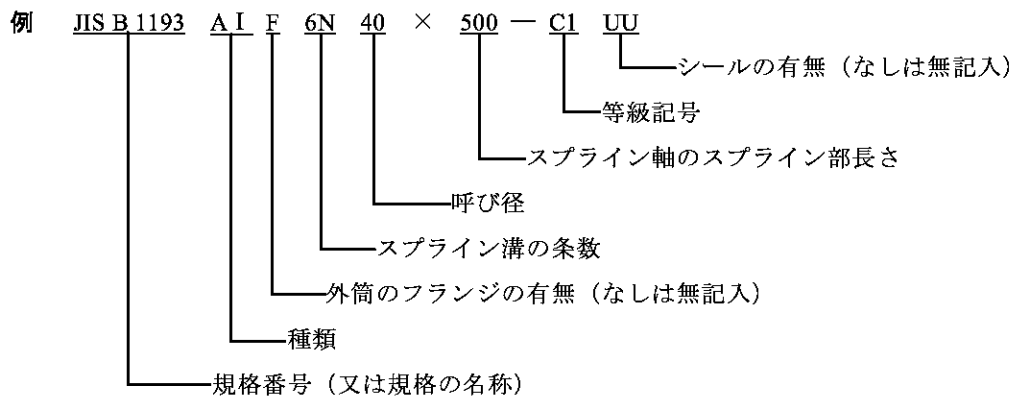
9.7 硬さ 硬さの試験は、JIS B 7725に規定する試験機を用い、JIS Z 2244によって試験を行い、スプライン軸はスプライン部外径で、外筒本体はスプライン溝近傍の端面で測定する。

10. 検査 ボールスプラインの検査は、外観、精度及び硬さについて行い、5., 6., 8.及び13.の規定に適合しなければならない。

11. 包装 ボールスプラインの包装は、JIS B 1517の規定を準用する。

12. 製品の呼び方 ボールスプラインの呼び方は、規格番号（規格の名称）、種類記号、外筒のフランジの有無、スプライン溝の条数（条数には、N記号を付ける。）、呼び径、スプライン軸のスプライン部長さ、等級記号及びシ

ールの有無による。



13. 表示 ボールスプラインは、包装の見やすい位置に容易に消えない方法で、次の事項を表示しなければならない。

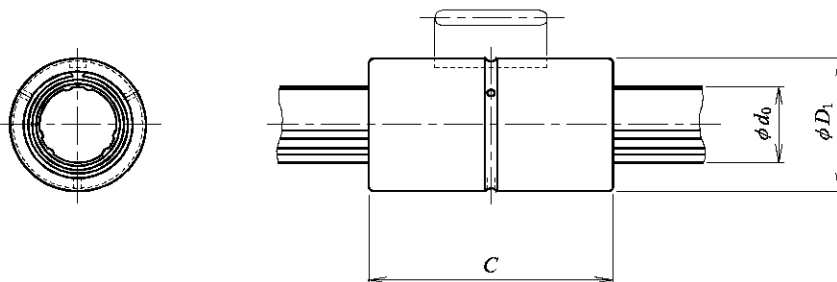
なお、外筒には見やすい位置に、製造業者名又はその略号、ボールスプラインの等級を表示することが望ましい。

- a) 規格の名称
- b) 種類及び等級
- c) スプライン溝の条数
- d) 呼び径
- e) 製造業者名又はその略号

附属書 1（規定） ボールスプライン外筒の形状及び寸法

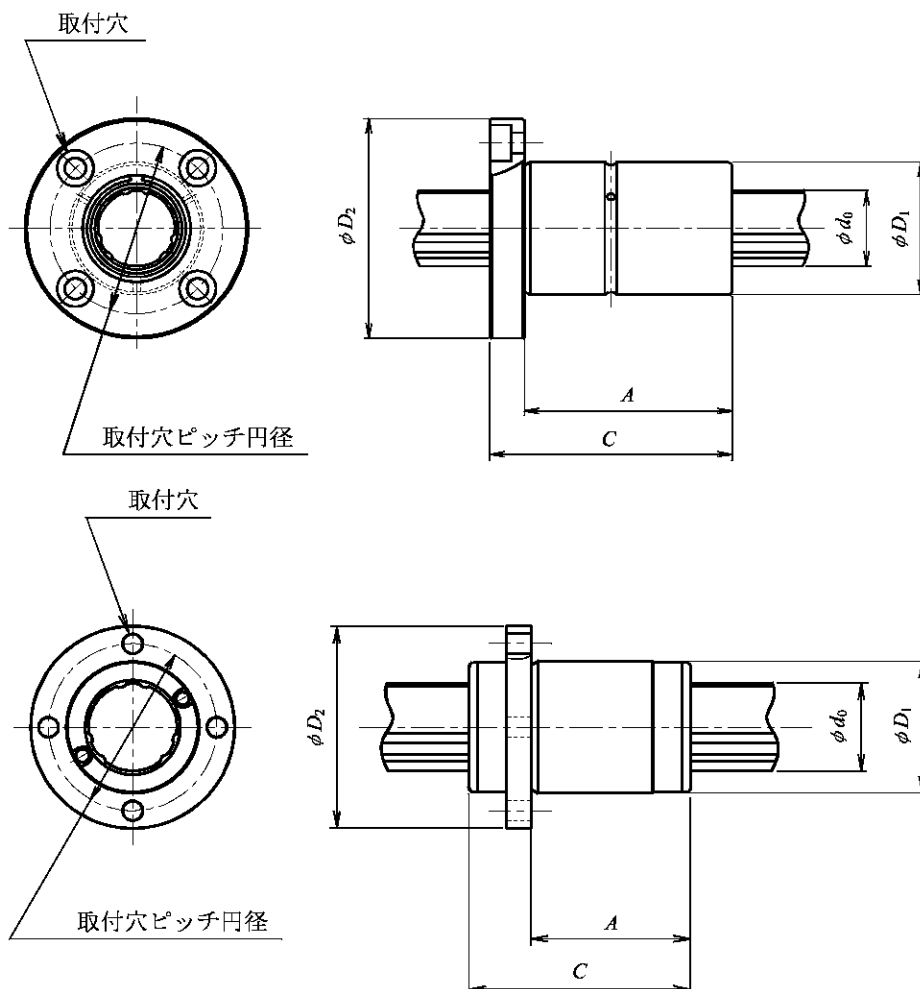
1. 適用範囲 この附属書は、ボールスプライン外筒の形状及び寸法について規定する。

2. ボールスプライン外筒の形状及び寸法 ボールスプライン外筒の形状及び寸法は、附属書1図1及び附属書1図2並びに附属書1表1及び附属書1表2による。



備考 図は、構造の一例である。

附属書1図1 フランジなしボールスプラインの形状



備考 図は、構造の一例である。

附属書1図2 フランジありボールスプラインの形状

附属書1表1 フランジなしボールスプライン外筒の寸法

単位 mm

呼び径 d_o	AⅠ形, AⅡ形						R形		
	寸法系列 1			寸法系列 2					
	D_1		C	D_1		C	D_1		C
	基準寸法	許容差		基準寸法	許容差		基準寸法	許容差	
6	12	0 -0.011	21 30	14	0 -0.011	25	16	0 -0.011	27
8	15		25 37	16		25	20	0 -0.013	32
10	19	0 -0.013	30 47	21	0 -0.013	33	24		36
12	21		35 54	—		—	28		38
13	—	—	—	24	0 -0.013	36	—	—	—
15	23	0 -0.013	40 65	—	—	—	—	—	—
16	—	—	—	31	0 -0.016	41 50	36	0 -0.016	57
20	30	0 -0.016	50 60 71	35		46 63	42		58
25	37		60 70 84	42		60 71	47		69
30	45		70 80 98	47	0 -0.019	66 80	55	0 -0.019	82
40	60	0 -0.019	90 100	64		100	72		105
50	75		100 112	80		125	90	0 -0.022	137
60	90	0 -0.022	127 140	—	—	—	110		158
80	120		160 217	—	—	—	140	0 -0.025	215

附属書1表1 フランジなしボールスプライン外筒の寸法（続き）

単位 mm

呼び径 d_0	A I 形, A II 形						R形		
	寸法系列 1			寸法系列 2					
	D_1		C	D_1		C	D_1		C
	基準寸法	許容差		基準寸法	許容差		基準寸法	許容差	
100	140	0 -0.025	160	150	0 -0.025	185	180	0 -0.025	265
			175			248			
120	160		200	—	—	—	—	—	—

備考 外筒長さ C は、シール寸法を含む全長（最大値）。

附属書 1 表 2 フランジありボールスプライン外筒の寸法

单位 mm

呼び 径 d_0	AⅠ形, AⅡ形																R形												
	寸法系列 1								寸法系列 2																				
	D_1		C	A	D_2 (最大)	取付穴ピッチ 円径 (最大)	取付ボルト呼 び径 (参考)	取付穴数 (参考)	D_1		C	A	D_2 (最大)	取付穴ピッチ 円径 (最大)	取付ボルト呼 び径 (参考)	取付穴数 (参考)	D_1		C	A	D_2 (最大)	取付穴ピッチ 円径 (最大)	取付ボルト呼 び径 (参考)	取付穴数 (参考)					
	基準寸法	許容差							基準寸法	許容差							基準寸法	許容差											
6	12	0 −0.011	21	14	25	19	M3	4	14	0 −0.011	25	19	30	22	M3	4	16	0 −0.011	27	19	31	24	M3	4					
			30	23							20																		
8	15		25	16	28	22	M3	4	16		25	19	32	24	M3	4	20		0 −0.013	32	22	40	30	M4	4				
			37	28							20																		
10	19	0 −0.013	30	20	36	28	M4	4	21	0 −0.013	33	25	42	32	M4	4	24	36		25	44	34	M4	4					
			47	37							27																		
12	21		35	25	38	30	M4	4	—		—	—	—	—	—	—	28		38	27	48	38	M4	4					
			54	44																									
13	—	—	—	—	—	—	—	24	0 −0.013	36	28 29	45	34	M4	4	—	—	—		—	—	—	—	—					
15	23	0 −0.013	40	29 30 33	43	32	M4	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—					
			65	54																									
																			—						—	—	—	—	—
16	—	—	—	—	—	—	—	—	31	0 −0.016	41	33	52	40	M4	4	36	0 −0.016	57	43	60	48	M5	4					
			50	43																									
			20	30	0 −0.016	50	36 38 43	49			38	M4	4	35	46	36	60		46	M5	4	42	58	44	66	54	M5	4	
63	54																												
60	53	60				50	68		54	M5					4	47	69	53.5	72	60	M5	4							
71	57	71	62																										
25	37	60	43 46 51	60		47	M5	4	42	60	50	77	60	M6	4	55							0 −0.019	82	64	88	72	M6	4
		70	61							80	70																		
		84	67																										
30	45	70	49 54 60	70		54	M6	4	47	66	54	77	60	M6	4	55	82	64	88	72	M6	4							
		80	70																										
		98	77																										

附属書 1 表 2 フランジありボールスプライン外筒の寸法（続き）

単位 mm

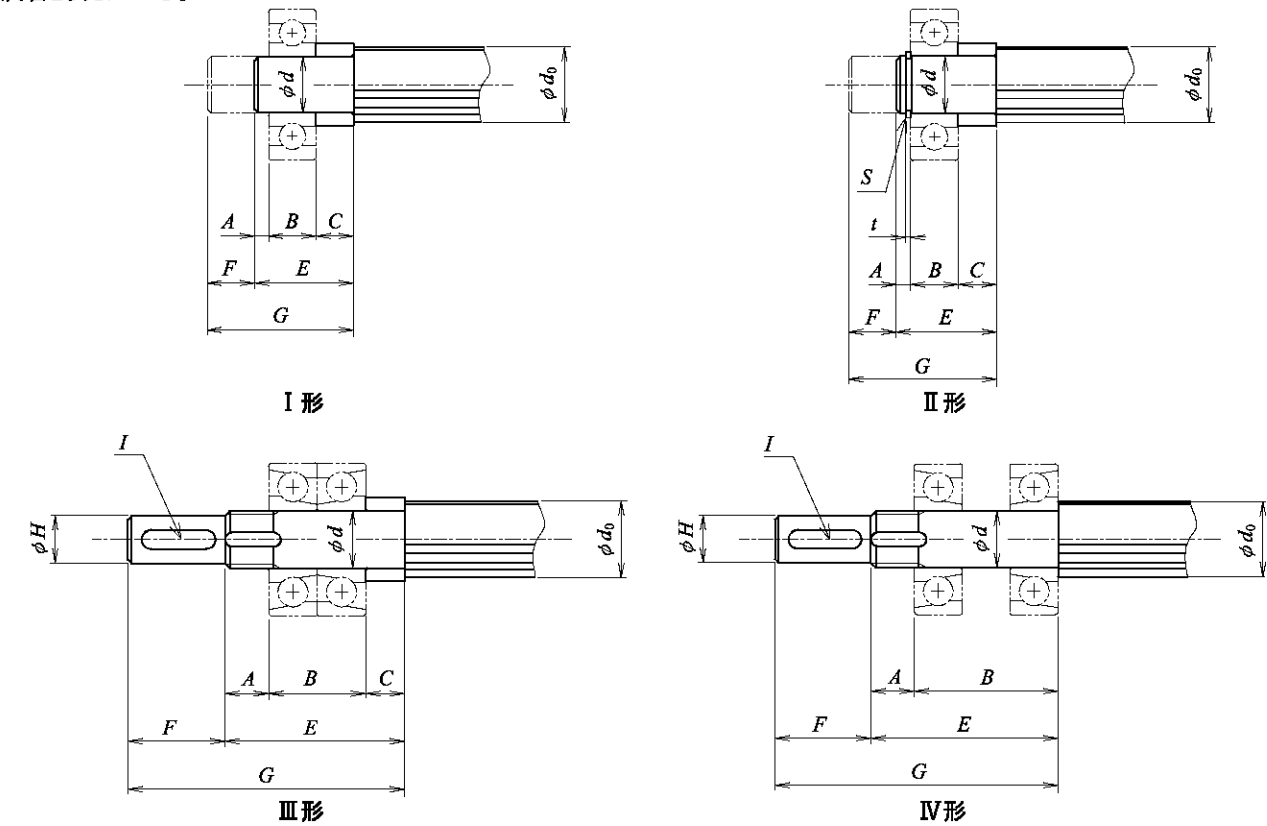
呼び 径 d_0	AⅠ形, AⅡ形																R形																								
	寸法系列 1								寸法系列 2																																
	D_1		C	A	D_2 (最大)	取付穴ピッチ 円径 (最大)	取付ボルト呼 び径 (参考)	取付穴数 (参考)	D_1		C	A	D_2 (最大)	取付穴ピッチ 円径 (最大)	取付ボルト呼 び径 (参考)	取付穴数 (参考)	D_1		C	A	D_2 (最大)	取付穴ピッチ 円径 (最大)	取付ボルト呼 び径 (参考)	取付穴数 (参考)																	
	基準寸法	許容差							基準寸法	許容差							基準寸法	許容差																							
40	57	0 −0.019	90	76	90	70	M 8	4	64	0 −0.019	100	86	100	82	M 8	4	72	0 −0.019	105	82.5	112	92	M 8	4																	
			100	86																																					
	60		90	70	93	73																			80	125	109	124	102	M10	4	90	0 −0.022	137	106.5	134	112	M10	4		
			100	73.4 86																																					
	50		70	100	84	108	86	M10	4		80	125	109	124	102	M10	4	90	0 −0.022	137	106.5	134	112	M10	4																
				112	96																																				
75	100		75	113	91	M10	4																			—	—	—	—	—	—	—	—	110	0 −0.022	137	106.5	134	112	M10	4
	112		96																																						
60	85	0 −0.022	127	109	124			102	M10	4	—	—	—	—	—	—	—	110	0 −0.022	137	106.5	134	112	M10	4																
	90				129			107																																	
80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	140	0 −0.025	215	173.5	184	162	M12	4																	
100	135	0 −0.025	160	135	195	162	M17	4	—	—	—	—	—	—	—	—	180		265	213.5	230	206	M14	4																	

備考 外筒長さC は、シール寸法を含む全長（最大値）。

附属書 2（参考）ボールスプラインの軸端の形状及び寸法

序文 この附属書は、ボールスプラインの軸端の形状及び寸法について記述するものであり、規定の一部ではない。

1. 軸端の形状及び寸法 軸端の形状及び寸法は、附属書2図1並びに附属書2表1、附属書2表2、附属書2表3及び附属書2表4による。



備考 転がり軸受は、設計仕様に応じて各種形式のものを使用するが、この図はその一例を示したものである。

附属書2図1 軸端の形状及び寸法

附属書2表1 軸端寸法（I 形） 単位 mm

呼び径 d_0	d	A	B	C	E	駆動軸端 F	G	使用転がり軸受例 JIS B 1521（深溝玉軸受）による呼び番号
6	4	3	5	4	12	10	22	624
8	6	3	6	5	14	12	26	626
10	8	3	8	6	17	16	33	628
12	10	3	9	7	19	—	19	6200
16	12	3	10	8	21	—	21	6201
20	15	3	11	—	14	—	14	6202
25	17	3	12	—	15	—	15	6203

附属書2表2 軸端寸法 (Ⅱ形)

単位 mm

呼び径 d_0	d	A	止め輪 S ⁽¹⁾		B	C	E	駆動軸端 F	G	使用転がり軸受例 JIS B 1521による呼び番号
			呼び	t						
6	4	3	4	—	5	4	12	10	22	624
8	6	3	6	—	6	5	14	12	26	626
10	8	3	8	—	8	6	17	16	33	628
12	10	3	10	—	9	7	19	—	19	6200
16	12	3	12	—	10	8	21	—	21	6201
20	15	3	15	—	11	—	14	—	14	6202
25	17	3	17	—	12	—	15	—	15	6203
30	20	4	20	1.2	14	—	18	—	18	6204
40	30	5	30	1.6	16	—	21	—	21	6206
50	35	5	35	1.6	21	—	26	—	26	6307
60	45	5	45	1.75	25	—	30	—	30	6309
80	60	5	60	2	31	—	36	—	36	6312

注⁽¹⁾ 呼び径30以上の止め輪は、JIS B 2804 (止め輪) のC形同心止め輪軸用の一例である。

附属書2表3 軸端寸法 (Ⅲ形)

単位 mm

呼び径 d_0	d	A	B	C	E	H	I ⁽²⁾	駆動軸端 F	G	使用転がり軸受例 JIS B 1522 (アンギュラ玉軸受) による呼び番号
12	10	9	18	7	34	8	2×1.2	16	50	7200B
16	12	9	20	8	37	10	3×1.8	20	57	7201B
20	15	11	22	—	33	12	4×2.5	25	58	7202B
25	17	11	24	—	35	14	5×3	25	60	7203B
30	20	13	28	—	41	16	5×3	28	69	7204B
40	30	18	32	—	50	25	8×4	42	92	7206B
50	35	21	42	—	63	30	8×4	58	121	7307B
60	45	27	50	—	77	40	12×5	82	159	7309B
80	60	36	62	—	98	55	16×6	82	180	7312B
100	75	45	74	—	119	70	20×7.5	105	224	7315B
125	90	54	86	—	140	80	22×9	130	270	7318B

注⁽²⁾ キー溝寸法は、JIS B 1301 (キー及びキー溝) による。

附属書2表4 軸端寸法 (Ⅳ形) 単位 mm

呼び径 <i>d</i> ₀	<i>D</i>	<i>A</i>	<i>B</i>	<i>E</i>	<i>H</i>	<i>I</i> (°)	駆動軸端 <i>F</i>	<i>G</i>	使用転がり軸受例 JIS B 1522による呼び番号
20	15	11	44	55	12	4×2.5	25	80	7202B
25	17	11	48	59	14	5×3	25	84	7203B
30	20	13	56	69	16	5×3	28	97	7204B
40	30	18	70	88	25	8×4	42	130	7206B
50	35	21	84	105	30	8×4	58	163	7307B
60	45	27	106	133	40	12×5	82	215	7309B
80	60	36	127	163	55	16×6	82	245	7312B
100	75	45	157	202	70	20×7.5	105	307	7315B
125	90	54	178	232	80	22×9	130	362	7318B

注 (2) キー溝寸法は, JIS B 1301 (キー及びキー溝) による。

関連規格	JIS B 1301	キー及びキー溝
	JIS B 1521	深溝玉軸受
	JIS B 1522	アンギュラ玉軸受
	JIS B 2804	止め輪

